

大規模農場&独立支援で いちき串木野をレタスの産地に！



1日に収穫するレタスはカップサラダ約1万食分。収穫と検品を同時に行い、即座に出荷される。



すでに社員1名を独立させた松田さん。5年で独立できるよう、農業技術や経営などを指導する。



レタスは冷涼な気候を好むが、霜は変色などの原因になるため、冬になるとビニールで覆う。



（株）ゼロプラスの皆さん。社員は独立を目指し、勉強の毎日。



独立者を増やし、いちき串木野市をレタスの産地にするのが松田さんの目標。休耕地が減ることは町の景観や周辺の田畑を守ることに繋がる。

業務用野菜は市場価格に左右されず、安定した収入を得られるのが最大の魅力。一方で、取引先との信頼関係なくして仕事はできません。「業者さんは安全性や品質にとってもシビアで、頻繁に農場を見学に来ます」という意味でもJGAPは大きな安心材料になるそうです。また、「自分が作りたいものを作りたいだけ生産するのではなく、相手が欲しいものをその時期や量に合わせて供給するということも大切です」と松田さんは語り、相手のニーズに応えていくことの大切さを教えてくれました。

業務用野菜を 生産するメリット

いちき串木野市で業務用レタスを生産する農業生産法人株式会社ゼロプラス。代表の松田健さんは、長野県の農業法人で11年勤務していましたが、独立し、鹿児島で青果卸業者有限会社かかねやまを営む知人と仕事をするため、こちらに移住することを決めたそうです。農地としていちき串木野市を選んだきっかけについては、「冬作のレタスを生産しようと、冬季に桜島の降灰がない農地を探していた際、いちき串木野市で観光農園を営んでいる方と出会い、その方の紹介で、農地を借りることができたんです」と松田さんは話します。

新規就農者を増やして いちき串木野をレタス産地に

長野では業務用レタスの大規模農場で栽培・営業・人材育成などさまざまな経験を重ねてきた松田さん。それを生かしながら、有限会社かかねやまと連携し、少しずつ会社の規模を拡大していきました。現在では、20ヘクタールに及ぶ農地でレタスを生産しています。また、松田さんは有限会社かかねやま、株式会社ローソンと共同で、安心・安全な食を届ける株式会社ローソンファームいちき串木野を設立し、代表も務めています。JGAP(食の安全や環境保全に取り組む農場の認証)を取得し、安心・安全なレタスの供給に努めているほか、「農場のルールブック」という分厚いマニュアルを作成し、従業員の意識啓発を図っているそうです。



今回の農家
加工・業務用レタス農家

取材協力
農業生産法人 株式会社 ゼロプラス
まつだ けん
松田 健さん

いちき串木野市内に点在する
合計約20haの畑で13品種の
加工・業務用レタスを栽培し
ている。



お知らせ

農業を始めたい方をサポート！/ 就農アドバイザー

就農を希望される方に対し、支援制度や研修施設の情報を紹介する就農アドバイザーを設置しています。さまざまな相談に応じていますので、ぜひご連絡ください。

■ 問い合わせ先
公益社団法人鹿児島県農業・農村振興会
Tel 099-213-7223